

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 7 年 1 月 14 日

事業所名 通所支援事業所はなうた・ハレノヒ(対象者 13 名 回答 13 名)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	13		◎広間や学習室等があり、定員に対しての広さは確保できています。	◎長期休み時に全員が床に降りると利用者の距離が近くなりますが、スタッフが間に入り安全を確保しています。
	2	職員の配置数は適切である	13		◎確保できています。毎月利用者数と見比べ配置するようにしています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	13		◎全てバリアフリーではありませんが、スタッフが個別で介助しています。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	13		◎月1回のケース会議と定期的に行う会議にて、業務改善に努めています。ケース会議は全スタッフが参加するようにしています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	13		◎アンケートで分からないやどちらともいえないに丸がついている際は改善できないか検討しています。意見箱も設置しています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	13		◎ホームページで公開しています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	1		◎外部評価ではありませんが、非常勤の先生よりアドバイスをいただいています。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13		◎定期的に内部、外部の研修を行っています。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	13		◎ケース会議で個々の課題や支援方法を話し合っ、それを計画に落とし込んでいただいています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	13			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	13		◎ケース会議にて行っています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	13		◎その時々季節の行事なども取り入れて固定化しないように取り組んでいます。	◎重心さんの支援は子どもたちの体調や様子を見ながら固定化しているときもあります。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	13		◎短時間、長時間それぞれで設定し、事前に利用児に合わせてミーティングを行い支援しています。	◎重心さんは平日の時間が短く身体的ケアで終わってしまう事もありますが、その分休日や長期休暇時に個々に合った支援を行っています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	13			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	13		◎昼礼や振り返りの時間を設け、毎回丁寧に流れを確認しています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	13			◎当日の振り返りが難しい時は翌日振り返りをしています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13		◎日誌やケース記録を記入、チェックを行っています。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	13		◎ケース会議にて行っています。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	13				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	13			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	13		◎学校への送迎時に直接先生と情報共有を行っています。また、保護者を通じたり、保育所等訪問でも連携が取れていると思います。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	11	1	◎保護者を通じて行っています。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	12	1		◎重心さんは未就学児から上がってきた方がいませんでした。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	13		◎担当者会議や移行支援シートの作成を行い情報提供を行っています。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	12		◎放デイ連絡会議への参加を行っています。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	9	4	◎きょうだい児交流会を実施しています。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	13			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	13		◎連絡帳やSNSの活用、送迎時にも情報交換、共有を行っています。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	13		◎定期的に事業所にて保護者研修会を開催しています。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	13		◎契約時、更新時に説明を行っています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	13		◎定期的な個別面談や送迎時に行っています。また、ご相談があった場合は全スタッフで共有、話し合い後結果をお伝えするようにしています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	11	2	◎ペアレントプログラム、ワークショップを開催し、保護者間の交流と連携が取れるよう支援しています。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	13		◎苦情などは上司に報告後、全スタッフに周知の上適切に対応されています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	13		◎おたよりやSNSで発信しています。	
	35	個人情報に十分注意している	13			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	13		◎各々の段階に応じて手話、ジェスチャー、筆談、イラストなど本人の理解ができるような手段を取っています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8	5		◎清掃活動や地域行事への参加は行っています。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	13	◎定期的に研修を行い、マニュアル策定もされています。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	13	◎利用者全員が避難訓練できるよう計画をし、定期的に訓練を実施しています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	13		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	12	◎身体拘束は同意書も作成し、保護者へ説明後サインをいただいています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12	◎保護者を通じて行っています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	13	◎事案が発生した場合は必ず回覧をして情報を周知、共有しています。	